

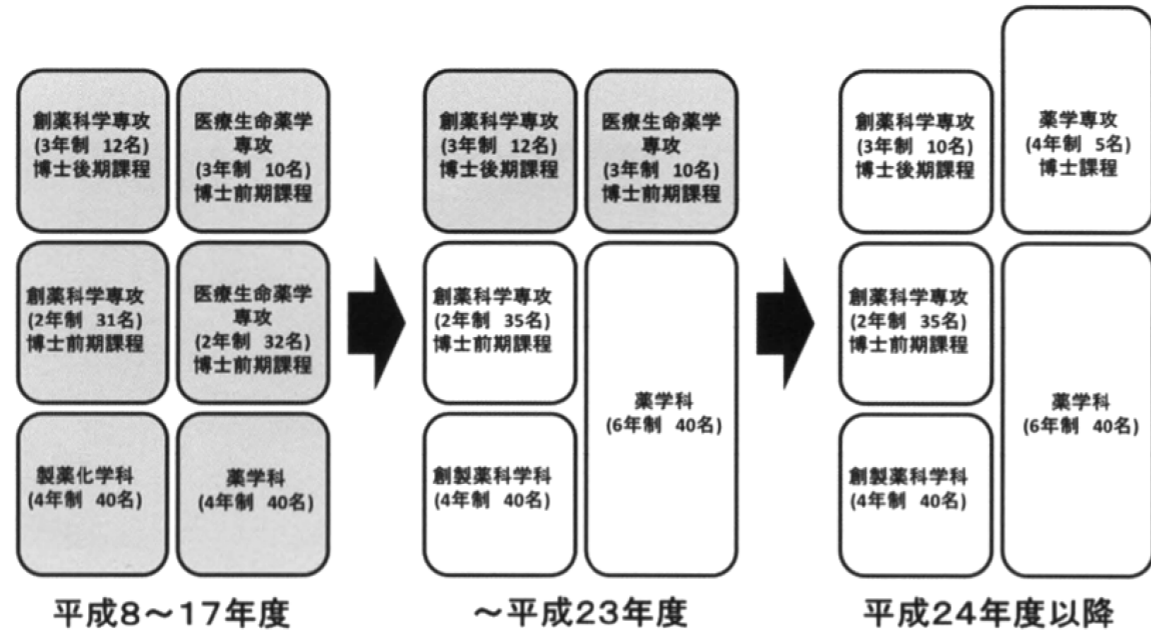
大学院薬科学教育部

2006（平成18）年度から薬剤師養成のための学校教育が6年制学部課程に変更されたことに伴い、本学薬学部では薬剤師養成をめざす6年制の薬学科と創薬研究に貢献できる人材の養成をめざす4年制の創製薬科学科を並立させた。

これらに対応し、大学院薬科学教育部では学部2学科教育の特徴を大学院まで継続し、それぞれの分野で学部・大学院一貫教育を推進する方針のもと、2010（平成22）年度に創製薬科学科（4年制）卒業生を主な対象とした創薬科学専攻（博士前期課程（2年、定員35名））を、2012（平成24）年度に薬学科（6年制）卒業生を主な対象とした薬学専攻（博士課程（4年、定員4名））と、創薬科学専攻博士前期課程に続く創薬科学専攻博士後期課程（3年、定員10名）を設置し、現在に至っている。

大学院教育の中身について、ここ10年で大きく2つの内容について改革が行われてきた。1つ目として大学院の国際化で、大学院関連書類の英語併記を実施するとともに統合医療学際教育英語プログラム入学試験でインターネットインタビューが導入され、海外の学生への門戸を広げたこと（2013（平成25）年

度～）、また、大学院生の海外との交流を活性化することを念頭に、博士課程に「グローバル PhD コース」を導入したことが挙げられる（2017（平成29）年度～）。2つ目として大学院の質の向上を図った。まず大学院のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの見直しを行い大学院の方針を明確化するとともに（2016（平成28）年度）、大学院教育の実質化の一環として「専攻公開ゼミ」が開始され（2018（平成30）年度～）、大学院生の指導方針も「大学院研究指導ガイドライン」に基づいて実施されることになった（2019（令和元）年度～）。さらに大学に「教育プログラム評価委員会」を置き、学生の学修成果や教育課程、教員の教育活動を評価した上で、教育課程や教育方法の改善を図るシステムを整備した（2018（平成30）年度～）。これらを通じ、世界に開かれた大学院であるとともに、薬学における各領域を充分理解し、社会あるいは他分野との広範かつ密接な連携構築が可能であり、高度な専門性を有する人材、すなわち「インタラクティブ YAKUGAKUJIN」の育成を目指す。



図：学部・大学院組織の変遷（色つき：旧体制、色なし：新体制）



令和元年度徳島大学大学院医歯薬学研究部市民公開講座(大学院薬科学教育部担当)(2019年12月)



研究倫理プログラムワークショップの様子(2019年8月)



学位授与式(2018年9月修了生)



ソウル国立大学校薬学部学術交流20周年記念シンポジウム(2010年12月)



薬学部正面玄関